

Gallery 愛海詩

えみし

光と色彩のリズム

酒井 芳元

水彩画展

風韻の情景

4月26日～5月15日

彩遊の号 No.42
 愛海詩の会
 会報
 令和4年4月15日発行
 編集発行人/ギャラリー愛海詩
 佐藤 睦子
 〒064-0821
 札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
 TEL・FAX/(011)613-1112
 WEBSITE
<http://www.emishi-s.com>
 E-mail:kougei@emishi-s.com

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
 ◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予約をお手数ですがお電話下さい。



創作中の酒井芳元氏

プロフィール

- 1960年 北海道生まれ
- 1983年 東海大学教養学部芸術学科卒業
- 1989年 安田火災美術財団奨励賞展 出品
- 1992年 三軌会にて奨励賞 受賞
- 1995年 京都、佛教学大学四条センター水彩画講師
- 1996年 札幌にて絵画教室、絵画グループ「かおり」を開設
- 2019年 北海道銀行カレンダー絵画採用「そらのレストラン」映画シーン絵画制作

◎1977年より37年間、公募美術団体三軌会絵画部に所属。絵画部会員、評議員を務め、2014年に退会。
 ◎30年間京都の水彩画制作、京都との縁も深い。
 ◎YouTubeにて水彩画技法動画を配信中。

お知らせ

4月28日(木)、午前11時から約1時間、FMラジオカロス札幌78.1Mhz「木曜而今」の番組に画家の酒井芳元氏が出演されます。(5月7日、土曜日午前11時から再放送、リッスンラジオのアプリで聞くこともできます)是非お聞き下さいませ。



水芭蕉 (F4)

たゆたう水の光に立つ水芭蕉。その淡緑色と白が冴えます。密やかに祈るように咲く花の美しさがそこにあります。水芭蕉の優しいたたずまいが感じられます。



バラとガラスの花瓶 (F4)

春方、北に満つ

新しい春が巡って来ましたが、北の街に暮らす私達には一際待ち遠しかった季節でもありません。美しい春の光、風、音色、彩りに感性をゆらしたく思います。そしてまた、一方ではコロナ禍、日本、世界情勢を注視し、気を配りつつの中にもあります。沈むことなく、繋がりを感じたいと思ひます。希望の絆をつないで行きたくも思ひます。

ギャラリー愛海詩、今年の作品展は、酒井芳元氏の水彩画展からのスタートでございます。春の光、風、彩りを見せてくれる水彩画の風韻へ、ギャラリー愛海詩へいらして下さい。いよいよ作品展のスタートとして、特別注文の作品が順次届いたりする中、職人・作家と話をしていると、背筋がピツと伸びる自分がいます。

私の人生の大半は、北海道の文化の灯火となるために働き、伝えてきた年月があります。皆さまもまた、各々の場を照らす存在としていらつしやることと思ひます。私はその一隅を小さくとも灯し続けて参りましたが、その伝えていく拙さ、もどかしさも同時に感じつつの歩みでありました。これからはしっかりと伝えて行く大切さを感じております。そしてまた、コロナ禍の荒波を被るような日々もありませんが、「愛海詩の会」共々、揺れながらも、揺られつつも心棒に立つ事を忘れず、進んで行こうと思ひます。

来年はギャラリー愛海詩・愛海詩の会も二十五周年を迎えます。初心を大切に、忘れず、新たなステージへ進んで行こうと、春の息吹を感じつつ準備を進めております。

心を寄せていただく会員始め、皆さまに感謝をし、その思いをエネルギーに変えて、新しい春の光、風、音色、彩りの中で忍せにせず進んで参ります。

(佐藤 睦子)

ギャラリー愛海詩 オープン時間

・11時30分～18時・木曜日 13時～18時・月曜日 定休日
 ・状況の変化により、上記のオープン時間等、急に変更されるを得なくなる場合がございます。
 お越し下さる時などギャラリー愛海詩にご一報下されれば幸いです。連絡先はこの会報の右上にございます。

お誘い・酒井芳元氏を囲む会

5月13日(金)、14日(土)、15日(日)の午後2時～午後3時30分まで。

参加費 4500円(各日先着4名様) 酒井氏のレクチャーと実演。手書きの素敵なサイン入り絵葉書をプレゼント。どなたでも参加できる楽しい有意義な会です。ギャラリー愛海詩までご予約下さい。

場 所 ギャラリー愛海詩2階

「ご挨拶」 作品展によせて

画家・酒井 芳元

この度はギャラリー愛海詩で作品展を開催させていただくことになりとても嬉しく思っております。私は北海道札幌市東区南郷町で画家の長男として生まれました。17歳の時に父が所属していた公募美術団体三軌会に出品、初入選となり、その時から現在まで44年間、絵画にかかわる生活が続いています。絵描きの家で生まれましたから61年間そのような環境で暮らしているとも言えます。

学校の専攻は油彩画でしたが30年くらい前、京都との縁があり水彩画を描くことになりました。描いているうちに水彩画での表現技法も様々あり奥深いものと感じその魅力に惹かれるようになりました。絵画教室を開催していますが油彩画から水彩画とだんだん変わり皆様にも親しみやすい画材となっております。水彩用紙の素材はコットンでその上で広がる絵具の色彩、表情は他の画材にはないものがあります。パレットに出した絵具は乾燥させ固め、筆に水をつけて絵具を溶かし描くだけ。画材はシンプル、しかしそこで表現される作品には様々な世界が広がります。

私は北海道で生まれ、厳しさとしさの経緯は、潜在の情景として今日この時も、あきらかに織りなしています。その暖かく柔らかな光と冷たくも華やいだ色彩のリズムの発見を日々の暮らしと絵づくりに拮抗しています。

印刷物やインターネットにより私の作品は手軽に見ていただくことができる時代になりましたが、この度のギャラリー愛海詩でじっくり原画をご覧いただきたいと思ひます。



枝垂桜 (F4)

桜満開、生命への謳歌と春への礼讃。



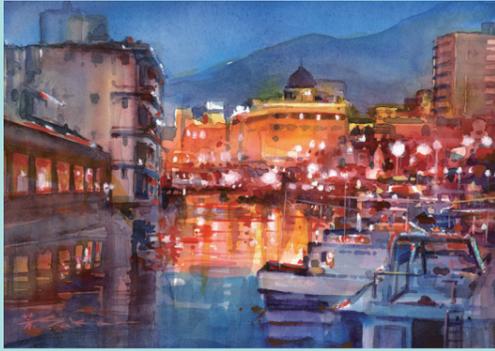
オタモイ海岸 (F4)

手前の緑、海、空が溶け合い、微かな色のトーンが静けさを湛え、心安らぐ絵です。色彩のコントラストが品よく纏まりを見せています。



黄色いバラ (よこ75cm×たて31cm)

あふれるような光を集めた黄色いバラが美しく咲きほこります。色のリズムのハーモニーが見事です。元気とエネルギーをいただけそうな一枚です。



夜の樽運河 (F4)

港町ならではの異国情緒を思わせる小樽運河。夜の光と影、そこに憩う人々の物語さえ感じられます。現在と過去を写す運河の色彩の見事に筆のリズムが静かに胸に響きます。



牡丹 (F6)

うつり行く牡丹の咲く刻を色で表し、一枚の葉や花びらに光が捉えられています。高貴な佇まいがその場を清々しくします。



夜明けの海 (F6)

人はみな、海から生まれ、海へ還ると言う。そんな生まれ出づる所の海を思わせる「夜明けの海」遠くかすかな光と黄色がその始まりを謳いあげているかのようです。

二十年以上振りの酒井芳元氏との出合いは昨年三月、酒井氏の作品展でありました。一枚の絵に釘付けになり、我に返って酒井氏と立ち話をし、その後連絡をとり合い、今回の作品展の運びとなりました。

ギャラリー愛海詩で初めての「酒井芳元水彩画展」です。酒井氏は今は亡きお父上も画伯で、温厚な教養人で素晴らしい絵を描かれる方でした。小さい頃から、その姿に接し、表現することを好み、自然の流れのように画家の道へ進みます。今でも筆が自身の一部のように、何時間でも描き続ける時があり、筆を持たない日は無いと言います。BGMはクラシックかジャズ。

そしてまた、水彩画を表現する手段として自ら動画を作っています。映像作品とも言える動画で、酒井氏の誠実さも伺えます。これからやりたい事は沢山あるようです。その一つに北海道に生まれ育った画家として、自分にかかけない、北海道の風景、その光の温度さえ捉えた水彩画の表現です。構図・色彩・筆の運び、自身の絵の見せどころを熟知され、淀むことなく清々しい水彩画を描かれる酒井芳元氏、皆さまの心の琴線にふれる絵と出合えます。作品展、是非ご覧下さい。